



奈良県マスコットキャラクター
せんとくん
©NARA pref.

奈良県感染症発生動向調査 還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター Nara IDSC
(奈良県保健環境研究センター内)



今週の概要

- 今週の感染症情報
- 月報告対象感染症（性感染症・薬剤耐性菌感染症）発生状況（5月月報）
- 病原体（ウイルス）検出情報（5月）

（調査週）平成 24 年 第 2 3 週 6 月 4 日（月）～6 月 1 0 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週間からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北部	中部	南部
1	感染性胃腸炎	6.43	→	→	→～↑	↓
2	A群溶連菌咽頭炎	1.46	→～↑	→	↑	→～↓
3	咽頭結膜熱	0.86	↑	→	↑	→
4	水痘	0.83	→～↓	→～↓	→～↓	→～↑
5	流行性耳下腺炎	0.43	↑	↑	→～↑	↑↑

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

県北部地区概況 報告数は137例で、前週報告の187例から減少。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②A群溶連菌咽頭炎、③水痘、④流行性耳下腺炎、⑤咽頭結膜熱の順。感染性胃腸炎の報告数（86例）は減少。A群溶連菌咽頭炎の報告数（16例）も減少。咽頭結膜熱の報告数（5例）は横ばい。水痘の報告数（13例）はほぼ横ばい。流行性耳下腺炎の報告数（6例）もほぼ横ばい。奈良市保健所管内眼科定点より、流行性角結膜炎が1例報告された。また、基幹定点からの報告は、奈良市保健所管内よりマイコプラズマ肺炎1例（5～9歳児）、郡山保健所管内より細菌性髄膜炎1例（0歳児）と無菌性髄膜炎1例（10～14歳児）が、それぞれあった。（村井 記）

県中部地区概況 報告数は、203例から219例と増加した。上位5疾患は、感染性胃腸炎、A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱、水痘、流行性耳下腺炎の順であった。感染性胃腸炎は130例と増加傾向であり、A群溶連菌咽頭炎は31例と増加している。眼科定点からは、流行性角結膜炎の報告が、桜井保健所より1例、葛城保健所より1例、計2例あった。基幹定点からの報告はなかった。 (高木 記)

県南部地区概況 報告数(第22週→第23週)は53例→25例と減少。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(28例→9例)、②水痘(9例→7例)、③A群溶連菌咽頭炎(13例→4例)、④ヘルパンギーナ(0例→2例)、⑤流行性耳下腺炎(2例→2例)、⑥突発性発疹(0例→1例)であった。 (柳生 記)

【月報告対象感染症(性感染症・薬剤耐性菌感染症)発生状況(5月月報)】

平成24年5月に、奈良県内の定点医療機関より保健所に届出のあった月報告対象感染症の報告数は以下の通りです。

・STD患者数(人)

疾患名\報告月	5月		前月(4月)	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
性器クラミジア感染症	6	0.67	3	0.33
性器ヘルペスウイルス感染症	3	0.33	2	0.22
尖圭コンジローマ	3	0.33	1	0.11
淋菌感染症	8	0.89	3	0.33

・薬剤耐性菌感染症患者数(人)

疾患名\報告月	5月		前月(4月)	
	報告数	定点当たり報告数	報告数	定点当たり報告数
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	31	5.17	27	4.50
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	6	1.00	4	0.67
薬剤耐性緑膿菌感染症	2	0.33	1	0.17
薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0

(感染症情報センター 記)

【病原体（ウイルス）検出情報（平成 24 年 5 月）】

病原体定点医療機関から保健環境研究センターウイルスチームに搬入された検体の、5月におけるウイルス検出状況は以下の通りです。

患者数（平成 24 年 5 月検出分）

検出病原体		北和	中和	南和	臨床診断名
ロタ	A	2	1	9	感染性胃腸炎(10) 乳児嘔吐下痢症(1) ロタウイルス感染症疑(1)
ノロ	GⅡ		3		感染性胃腸炎(3)
アデノ	2		1		アデノウイルス感染症疑(1)
コクサッキー	B3		1		ヘルパンギーナ疑(1)
インフルエンザ	B		4		インフルエンザ様疾患(4)

（保健環境研究センター 記）

これらの内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
アドレス http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_menuid-27874.htm

